

第12回地域こども支援団体連絡会 アンケート集計（自由記述）

日時：平成30年10月19日（金）10：00～12：00

場所：大阪市立社会福祉センター3階301会議室

テーマ：「新しくこども食堂をつくるために」

登壇者：こどものへや しま☆ルーム 福井潤一郎さん

大阪市立南小学校 前校長 山崎一人さん

旭区役所保健福祉課 課長代理 佐野雅哉さん

NPO法人 フェリスモンテ 隅田耕史さん

参加数：55人 アンケート回収件数：28人 回答率：50.9%

①今回の事例報告について

<とても役に立った>

- ・学校との連携
- ・山崎校長先生のお話、今の学校や子ども達の状況が良くわかったし、なるほど！と納得できることが多かった
- ・南小学校の校長先生の実践のお話は、大阪の子ども事情を改めて知り、又、見えない生活実態がまだまだあるのではと感じた
- ・何らかの支援で子どもの可能性を広げていきたい
- ・山崎先生による地域で子ども食堂をやりたいと思う気持ちを持っている人がいても相手の事があまり分からない状態だと躊躇してしまうが、つなげてくれた区社協の存在が大きかったという点が印象に残りました。地域の人声に耳を傾け「やりたい」という思いに寄り添って横とのつながりを作っていきたいと思います
- ・子どもたちの「生活背景」を知らないと支援はできない。「知る」ことが支援の幅を広げる学生とのつながり方や連携の重要性、家庭環境によって様々な問題があり、そこに支援の手が届けば非行にはしる子どもや孤食なども軽減できるということ。無理なく定期的に開催することにより居場所として子ども達に認知してもらう重要性
- ・今日のお話しとっても参考になりました。ありがとうございます。熱意とつながりが、まわりを動かすというのが印象的です。それと、出会いが大切ですね!!再確認しました
- ・旭区役所の取り組み、山崎先生の話良かったです
- ・山崎先生、6年間南小に居られ、色んな子どもを見てこられたのだと思います。学校の先生にも色んな方がいますが、子どもの事が好き、大切に思っておられることは共通していると思います。山崎先生のような方に出会えることを信じて活動していきたい
- ・外国にルーツをもつ子どもが、多少にかかわらずいると感じていたところ、今日の山崎校長のお話しを聞くことが出来たことに感謝します。区社協も意識をもって考えていきたい

と感じました

・出会いの大切さと何より熱意が重要だと思った。自分の活動している地域と旭区は全然ちがうなと思いましたが佐野さんがおっしゃっていた区の特性を考えて、アピールしていきたいと思う

・実際に活動している団体、学校、区役所など、様々な視点からお話していただき、それぞれ他機関ではありますが熱意が重要なのだと改めて思いました。社協として何ができるか、何をしていく必要があるかを考えていかなければならないと思えました。ありがとうございました

・これまで、一番内容の充実したものでした。感謝。

・「食育」という言葉への違和感があります(活動的に)もっと適した言葉はないのかしら〜と

<役に立った>

・学校との連携

・熱意・ネットワーク・出会い

・子ども食堂と立ち上げるにあたって、自分たちだけで努力すれば立ち上げられるが、継続性を持たせるためにも学校や社協、区役所との連携は大切だと思いました

学校との連携は不可欠と考えているか？なかなか困難しかし、本日の山崎先生の話聞き、社会情報(ニーズ)も変わってきているのでどンドン扉をノックしていけば道は開けるのかな?と思いました

・旭区の方のおはなし「立ち上げたい!」と「役所」の距離は遠いなあ…と感じた。どちらも志は持っているのに…

・山崎先生のお話しをお聞きし、南小学校地域に合った支援をされていると思いました。地域により支援の仕方があるのだと思いました

・山崎さんのお話しに感銘を受けました。こんな校長先生に出会えた子ども・地域、素晴らしいですね。やはり「人」なんだなとつくづく思います。子どもへの愛情、熱意、素晴らしいです。これからも、ずっと続けていって欲しいですね。応援団の人々も

ネットワークと結ぶことで情報を共有でき、役所を動かすこともしやすくなるのだと思った

②子どもたちとの関わりで困ったことはありましたか

・準備中ですがボランティアの募集で苦労しています

・居場所や子ども食堂での学習支援についてそれなりに手ごたえはあるが、学力アップに直結はしないと思う。(頻度が少ない、集中力が持たない、体系的な学習でないなどの点で)しかし、市長さんは「居場所で学習支援をして学力アップして全国での順位をあげよう」と期待されているそうです。それを私達に期待されてもムリ(これをやろうとすると子どもは居

心地が悪くなるのでは?)

・貧困家庭の支援をしたいと思い始めましたが、地域的に貧困層はいないようです。どう広げていけばいいかわかりません

・親に食堂へ来ることを言わず参加し、自宅へ送る際パトカーが動いていた。(そうさく)

・来たいと子ども自身は思ってくれていても夕方～の居場所は遠くて自力で来れない。迎えに行く手がたりない

・困っている子どもを知り、アクセスする方法が少ない。公的機関(役所・学校)から特定の子ども・家族にだけ情報提供することの是非問題があり、なかなかハードルが高い(SSW とのつながりで緩衝材になってもらったり)

・子ども達に話をするときに伝えることに苦労します。伝え方はとても大切だと思っています

・校区外移動の安全管理、必要な支援にとりくむ余力がないが不登校の子どもへの支援が課題

③その他ご意見・ご感想、今後取り上げてほしいテーマなど

・社会擁護下にある子ども達の理解

・より多くの実践例を伺いたいです

・旭区のネットワーク。参加するする団体の基準、ガイドライン等があるのか知りたかった。宗教色を出して活動している団体や活動実態がわかりづらい団体など、参加できるか聞きたかったです

・建築、改修、設備関係で困ったことはないか知りたい

・NPO・学校・行政などステークホルダーを結びつけるのりしろをどう作るか。地域密着の市区社協ではない広域的な支援を担う府社協などはどう役に立てるか

・来年は子ども権利条約批准して 25 年?→学ぶ機会があると良いなと思います"

・今日はとても勉強になりました。ありがとうございました

・子ども支援、という活動の目標や理念をそろそろみんなで言語化、概念化していくことが必要なのではないのでしょうか。今後どうなっていくのがよいのかなど